

令和7年7月1日

立教188年

7月号
第634号



発行所

天理教字仁大教会
〒677-0015 西脇市西脇770-4
電話 0795(22)4066番
FAX 0795(22)4072番
unigrandchurch@yahoo.co.jp

7/9(日) こどもおぢばがえり詰所装飾ひのきしん



大教会毎月団参(6月)

散歩道

梅雨のシーズン。続く長雨に洗濯物は乾かず、ジメジメした湿気でカビが気になる。そんな日常に不足の一つもこぼすのが挨拶になる事も。でも不足だけでは勿体ない。

日本の梅雨前線は、地球の自転による偏西風が、この時期ヒマラヤ山脈とチベット高原にぶつかり南北に別れ、日本の東の海で再び合流する事で出来るそうです。

あるシュミレーションではヒマラヤ山脈の高さが半分なら日本に降る雨も半分になり、チベット高原がなければ梅雨自体がないそうです。八千メートルを超えるヒマラヤ山脈も元は海の底。五千万年前インドプレートがユーラシアプレートに潜り込み、押し上げられて隆起したとか。まさに「どろ海の中に高低が出来かけ」ですね。

そんな山や風のおかげで豊かな水が与えられ、お米や多様な植物が育つこの国の風土。四季の恵みは梅雨のおかげと感謝を忘れず、会話に一言豆知識を加えてみませんか。

一理塚

年祭活動の仕上げの年も折り返しを迎えました。御本部からは、にをいかけに、おたすけに、ひのきしんと、ラストスパークトをかけよう、とにかく動こうとの事、殊に『おぢば帰り』を言明されています。そのぢばの声を聞かせて頂く中、教祖の年祭なんだから、御本部に、教祖の居られるおぢばへ帰らせて頂く事に、何ら疑問は無いのですが、なぜ今、仕上げの一年になって、おぢば帰りを推奨されたのか考えました。お供えやお賽銭が少ないからでしょうか、おぢばがえりの帰参者が少なく、神苑が寂しいからでしょうか、人間心ではそれもあるかもしれませんがね・・・

でも、ぢばからのお声がけです。そんな浅はかな思いだけでは無いはずだと思いますので、まずはおぢばとは如何なる所であるかを、今一度、ぢば定めの記事から思案させて頂きたいと思っています。

信仰の最初に教えて頂きますのは、元の神・実の神で在らせられる親神様がお鎮まり下さる所であり、天理王命の神名を授けられた所がぢばであるという事です。また、人間創造の元のいんねんの所であり、神の思召しが満ちた時に甘露をおさげ下さる台、陽気暮らし建設の台を据える場所でもあります。教祖のお教えられるおつとめがあります、そのおつとめ 御本部の大祭や月次祭で勤められるおつとめを本づとめと申します。その本づとめは、かぐらづとめともかんろ台づとめとも言われる、万たすけのたすけづとめでもあります、そのつとめはぢばを中心に勤められます。

そうして、人間の母親なる魂の教祖が、ご存命の教祖が、永久に留まり、一列を守護されている所、そこがおぢばであります。

そのおぢば、おぢばは信仰の中心であります。

教祖の年祭は、信徒ようぼく、それぞれ成人の旬であり、信心の途を歩む上での塚あるうと思

います。

この年祭の旬に、今一度、自身や親々先祖のたすけて頂いた元一日の喜びと、この道に引き寄せられた奇しきいんねんに思いを巡らせて、神様のご守護、教祖の親心を真摯に鑑みる事も、成人の道には必要なことかと思えます。信仰の中心を忘れ、我が身思案に流れていないか、喜びや感謝を忘れていないか。

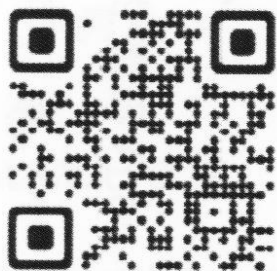
その為にも、三年千日仕上げの年、信仰の中心であり、万たすけの元である、教祖の居られるおぢばがえりを言明されているのではないのでしょうか。

私の友達の話で恐縮ですが、四人か五人の信仰初代の方々、ブラジルから帰参の段取りをしているようです。

さあ、おぢばに帰りましょう。喜びの種蒔きと、ようぼくとしての成人を心に・・・



要項、申し込み願書のダウンロードなどについては下記のQRコードからアクセスまたは、学生担当委員(田尻壮祐:090-6370-4924)までご連絡ください。



この夏、とっておきの出会いがキミを待っている！

学生生徒修養会 高校の部

●8/9~8/13

GAKUSHU for Highschool Students

学生層育成者講習会開催

五月二十四日の大教会の祭典後に学生層育成者講習会を開催しました。講師・岩井大介先生をお迎えし、学生担当委員会の基本方針「教祖を慕い、ひながたを辿る喜びを共に味わおう」をテーマに、育成に対する貴重なお話を頂きました。



講習会の講演は、左記のQRコードから聴くことができます。



みちのだい育み塾

五月二十五日（日）十時より、みちのだい育み塾を開催し、婦人会員三十名、男性三名が参加しました。遥々九州より小倉分教会会長夫人である是則ちなみ先生をお招きし、「教祖を身近に感じて」と題してお話を聴かせて頂きました。



先生は「このお部屋に入った時から教祖がいて下さるのを感じました」と仰られ、お話冒頭から参加者の目には涙が溢れていました。「この道は喜んで喜ばせて通る道。目の前にいる人を喜ばせてみて下さい。それが親神様の望まれる陽気ぐらしへと

つながっています」「教祖のことを思う時とてもワクワクした気持ちになります。そして、私が何をしたら教祖は喜んで下さるだろうか」とんのうの心が湧いてきます」と語られるお話一つ一つが胸に響きました。

参加者の感想より「教祖を身近に感じることは私にはできなかったけど、お話を聴いて少しでも教祖を感じられるように自分の行動を見つめ直していききたいと思いました」



教祖と歩む三年千日 教会布教実働報告

北播州分教会会場

布教日 三月六、七、十八、

二十三、三十日

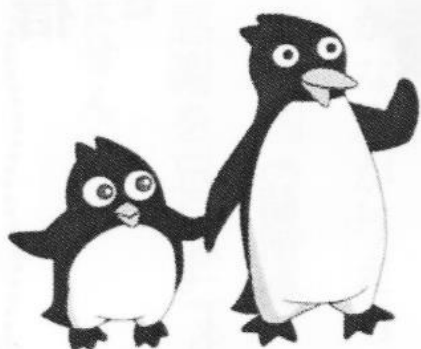
参加者数 三名

会場 教会周辺

内容 神名流し

ポスティング

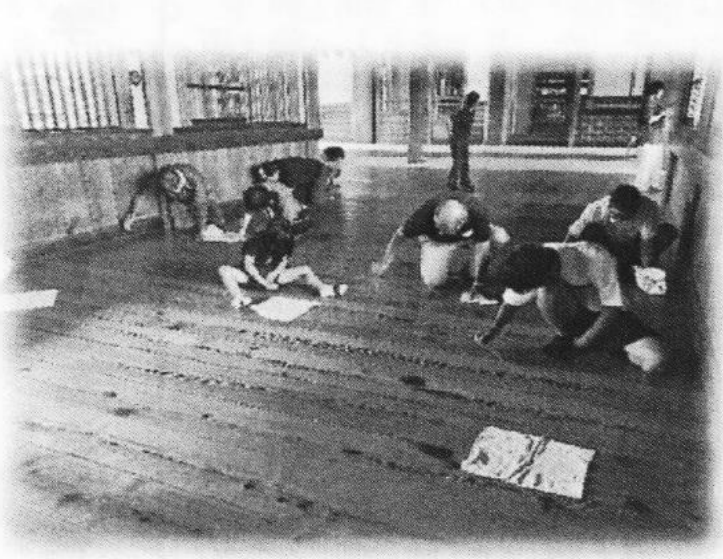
所感 三月二十三日の神名流しは、ポカポカ陽気なお天気となり心地よい汗を流させて頂きました。また、ポスティングでは、日本イエスキリスト教団西脇教会の責任者の方から日曜礼拝の時に、皆の前で「天理いきいき通信、及び、しあわせだより」を読んで紹介してまずという、嬉しい言葉も聞けて、コツコツ続けることの大切さを改めて思わせて頂きました。



毎月団参にぎやかに 実施される(六月)

毎月団参六月は、さる二十一日梅雨空の蒸し暑い中でしたがにぎやかに勇んで実施されました。この日は、マイクロスバス三台、ワゴン車、乗用車などで八十六名が帰参しました。

午前十一時三十分お願いづとめの後、教祖殿、祖霊殿参拝、東礼拝場前で記念写真。詰所で昼食の後、午後一時三十分より伏せこみ行事として本部東回廊の板と板との間にわたほこりがたまっているのを専用の竹へらでかき上げて綺麗にしました。参加者四十五名でした。



中席の方もおられました。会長さんが丁寧に案内されました。

またこの日は詰所で「あやめ会」も行事をしており、詰所は子供たちの歓声に包まれ、終始和やかな一日となりました。

○七月の毎月団参のご案内

〔日時〕

七月十三日(日)

十一時半 東礼拝場集合

〔内容〕

本部お願いづとめ参拝

午後 伏せ込みひのきしん

DVD講話観賞

「教祖と共に」

七月開催の毎月団参について
のお問い合わせは

七月担当(横山昇節090-
1912-7938)まで

また、詳細は左記のQRコードからご確認ください。



●訃報

西脇分教会四代会長

遠藤道男大人

令和七年六月十五日、出直されました。(享年九十二歳)

おさづけの理拝戴

昭和二十八年四月二十日

四代会長就任

昭和五十一年四月二十六日

修養科一期講師第五二期

昭和五十九年十月〜十二月

四代会長辞任

平成十四年二月二十六日

曾我井分教会四代会長夫人
徳平登志子刀自

令和七年六月二十四日、出直されました。(享年九十六歳)

おさづけの理拝戴

昭和三十二年五月二十一日

修養科修了

昭和三十二年五月二十七日

教会長資格検定合格

昭和四十三年八月十六日

教会長資格登録

平成二十四年七月一日

慎んで哀悼の意を表します

おぢば通信

五月のうごき

◎五月帰参者

一六二名
(詰所調べ)

七月行事予定表

6日 青年会例会

9日 婦人会例会

詰所装飾ひのきしん

午前九時半集合

13日 宇仁大教会毎月団参

15日 布教実働日

19日 少年会例会

24日 大教会月次祭

午前十時三十分執行

神名流し

26日 本部月次祭

午前九時執行

7/27
8/3 こどもおぢばがえり

婦人会より

◇大教会炊事当番

7月 豊原

8月 神福 A

9月 中河合

よろしく
お願いいたします